

Tacrolimus for Remission Induction and Maintenance Therapy in Patients with Ulcerative Colitis: A Retrospective Evaluation Study

メタデータ	言語: en 出版者: 公開日: 2019-06-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 伊藤, 亜由美 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.20780/00032172

様式 (6)

学 位 審 査

学 位 番 号	乙 第 2945 号	氏 名	伊藤 亜由美
審 査 委 員 会	主 査 教 授	山本 雅一	
論文審査の要旨 (400 字以内)			
<p>難治性潰瘍性大腸炎 (UC) の寛解導入としてステロイド(PSL)が多く用いられてきたが、副作用や寛解導入後の再燃が問題であり、PSL 以外での寛解導入が望まれていた。近年 UC に対し新たな治療として Tacrolimus (TAC) が登場し有効性が報告されている。UC に対し PSL で寛解導入した PSL 群と TAC を主治療として寛解導入した TAC 群で 1 年以上経過を観察しえた症例について患者背景、PSL 離脱率、再燃率について比較検討した。さらに、寛解導入後少量の TAC を長期投与し寛解維持を行った TAC 群、アザチオプリン (AZA) のみで寛解維持を行った AZA 群、TAC と AZA の併用で寛解維持を行った TAC+AZA 群で患者背景、再燃率について比較検討した。寛解導入を TAC で行った TAC 群で導入後の PSL 離脱率、再燃率が PSL 群に比べ良好な結果であった。寛解維持についても TAC 群、AZA 群、TAC+AZA 群と同等の再燃率であった。TAC 単独投与でも十分な寛解維持効果が期待できることから、維持治療の選択肢の 1 つになり得ると考えられ、臨床的に有用な研究と考えられた。</p>			
<p>本要旨は当該論文が第二次審査に合格した後の 1 週間以内に医学部学務課へご提出下さい。(本学学会雑誌に公表) [学校教育法学位規則第 8 条]</p>			